

IGF2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第35回会合 発言録

2023年6月12日

【加藤】 まだ参加される方もいらっしゃるかもしれませんが、定刻になりましたので、本日のIGF活発化チームの会合をスタートさせていただきたいと思います。皆さん、よろしくお願いします。

まず、アジェンダを少しスクロールしていただけますか。前回までの振り返りということがありますけれども、今日、日本政府、ホストとしての、総務省の方から御報告いただきたいのですけれども、岡崎さん、御参加いただいておりますでしょうか。

【岡崎】 はい、岡崎でございます。よろしくお願いします。

【加藤】 よろしくお願いします。今日、飯田さんが前後にミーティングがあって一部お出になれないかもしれないということで、岡崎さんをお願いするということでよろしくお願いします。

【岡崎】 はい、よろしくお願いします。

【加藤】 岡崎さんから、最近のこの1か月ほどの政府としての御準備状況とか懸案事項とかいろいろということで、何でも結構ですし。

【岡崎】 すいません、私ぱっと見て4番目だと思ったので、すいません、ごめんなさい。

【加藤】 ごめんなさい、いきなり4番目に行きまして、もう1、2、3は通常事項なものですから、失礼いたしました。

【岡崎】 いえいえ、すいません。ありがとうございます。

政府としての検討状況でございますけれども、本格的にIGFの事務局等々とプランニングのミーティングを累次重ね始めているところでございます。

あと、開催自治体との関係では、ちょうどあした、私含めて総務省の者が何名かで会場である京都国際会館、京都市役所、京都府庁に御挨拶に出張に行つてまいります。そこでと会場を実際に見て、全体にセキュリティのポイントなどを確認したり、あとはVIP用の宿を見たり、あとは府市と地元の含めたイベントの関係等々もミーティングができればと思っております。

あとセッションの関係ですと、今ワークショップなど公募が終わって、MAGの皆様の採点を待っているというところですが、事務局と我々は特にハイレベルセッションと呼ばれる閣僚級が出てくるハイレベルリーダーズセッションですとか、あとはサブテーマごとに行われるメインセッションですとか、オープニング、クロージングのセレモニーとか、VIPが主に出られるセッションについての検討が始まっております。

特にハイレベルリーダーズセッションのテーマをどうしようということを先日お話ししまして、今8つ仮のサブテーマが出ておりますけれども、特にIGF事務局の思いとしては、一つがAI関係、2つ目に偽情報、ディスインフォメーション関係、3つ目が国連のイベントでもありますので、SDGs開発、デ

デジタルディバイド関係、この3つぐらいの柱で何がしか具体的なテーマを決めて、その閣僚級ハイレベルのセッションのテーマを詰めていきたいというところでお話をいただいているところで、総務省の内部でも議論を進めているところでございます。

あとは一部の国際機関、OECDとか含めて、国際機関から総務省のほうにもセッションの共催ですとか登壇の依頼ですとかも来ているので、徐々にそういうところとのセッションの中身、登壇者の調整が始まりつつあると。

ただ、実際には採択されるのがどれかとか、実際に何日目の何時からにはまるかというところは、来月のMAGを待って、その後スケジュールが発表するまで待たなければいけないので、実際の細かい調整はその後に始まるものと思っております。

なので、少しずつそういうふういろいろな形が見え始めているところでございますので、具体的な小回りが決まるその前も含めて、総務省自身の提案のセッションも含めて、中身の御相談等々もタスクフォースの方々と少しずつでもさせていただければと思っております。

あと、これから少しサイドイベントのほうの調整もしていかなければいけないんですけれども、その関係でいうと、ユースをどうするかとかIGF Villageの展示に日本から積極的な御参加、どうやって企業の方々等に参加をしていただくかというところもちよっと悩ましいところで、内部でまだ議論をしているところなんですけど、また、近々御相談をさせていただくことがあるかなと思っております。

今のところ共有したいことは以上でございます。

【加藤】 ありがとうございます。皆様、御質問とかございますでしょうか。非常にだんだんと盛り上がってきて、岡崎さんが日々御苦勞をされているのがよく伝わってまいりました。

河内さんお願いします。

【河内】 河内です。私から聞くのはあれなんですけど、事務局に聞いて返事がないのでちょっと。この間ちらっと、今それこそワークショップの評価を90件以上割り当てられてやっているんですけど、全部でワークショップの提案、事務局が整理した上での数が398とあって400件ぐらいある中で、ワークショップ80件ぐらいしか多分採択できないんじゃないかと言っているといううわさを聞いたんですけど、それってやっぱりそんなもんなんですかね。ということは、4分の1以下に減らさないといけないので、去年も部屋の数が少ないからといって去年で3分の1ぐらいだったと思うんです。4分の1以下に減らすってとっても大変なことなので、自分が今評価を一つずつつけている上でも、4分の1以下にするのであれば結構厳しくつけていかないと、後で大変にならないかなと思ったんで、もしそこをお分かりになれば伺えればと思ったんですけども。

【岡崎】 その80件Maxという情報源が多分私で、全く同じ疑問を持ってチェンゲタイに、ちょうどプロポーザルの数が例年の倍だって聞いていて。

【河内】 倍近くですね。

【岡崎】 レコードハイであると。通常大体3分の1ぐらいの歩留りなところは大体5分の1になってしまうので、セッションの数増やせないのかって聞いたら、割とはっきりと増やさないって言われて、

キャパからするとマックス80かなというのをチェンゲタイが言っていたということです。

【河内】 それチェンゲタイが言っていたんですね。チェンゲタイに聞いたんですけど、返事がなかったんですけど。

【岡崎】 いろんなところから言われて、もしかしたら考えてくれているのかもしれないんですけど。

【河内】 それは必ずしもこちら側の事情ってわけではないんですね。要するに京都の国際会議場の部屋の数が少ないからとかそういうわけじゃないということなんですね。

【岡崎】 そうですね、もともとのしつらえがそうで、部屋の数、どういう設備がある、設備の数、客席が幾らの部屋を幾つ用意するかというのは、かなり前の段階でホスト国と事務局との間の契約事項の中にすごく細かく指定がされていて、応募が多いからちょっと増やそうというのはなかなか難しく、費用の関係もあって。チェンゲタイから返事がないのは、恐らくいろんなところから同じことを言われているんじゃないかと思うので、ちょっと我々からは、さすがにこの数だと増やさないのって明示的に聞いて、一旦駄目って返ってきたんですけど、同じことがいろんなところから来てちょっと考えてくれているのかもしれないです。また今度、そういう話が国内でまたあったんだけどどうなのというのは聞いてみます。

【河内】 私が聞いたときには、dependsって返ってきて、どういう意味と思ったんですけど。

【岡崎】 depends on what?という感じですかね。

【河内】 そうそう、そうです。

【岡崎】 何人呼ぶんだって、そもそも国連側が出してきたホスト国との解釈のアグリーメントに部屋の数とか本当に細かくきっちり、滅茶苦茶細かく書いてあるので。

【河内】 そうなんですね。

【岡崎】 はい。京都国際会館ってもともと国連のそういうイベントがきっちりできるようにということ想定して造られているので、極めてそれにフィットする形でいろんな部屋がきっちりあって、開催権限もあるのでということなので。ちょっと費用の問題が恐らく出てくるので、借り上げとはいえやはり会議をする部屋にはそれ相応の設備を入れるので。

もともと国連からの要求に従って予算を積んで、会館とも話を当然しているし、委託事業者とも話をしている形なので、もしかしたら何か考えてくれているかもしれないので、引き続き聞いてみます。

【河内】 ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

もうまさに今ホットに御担当されている岡崎さんから直接、何が起きているかを聞けるのでいい機会だと思いますけれども、いかがでしょうか。

もし皆さんがまだお考え中であれば、先ほどサイドイベントの話がありましたけれども、サイドイベントの具体的な企画とか、それは国際会館での会場で何かいろいろやるという感じのこともできる

んでしょうか。それとも、場所の確保は全く別途今、進行中なんですか。

【岡崎】 サイドイベントとして今、調整をし始めているのが、初日の夜にあるmusic nightというところをまず検討を始めていて、そこは行かれています方も御案内のとおり、開催国の伝統的な音楽ですとか料理ですとか、しかも3,000人から3,500人ぐらいを見込むとお料理をどうするかというものも含めて必要になるので、ちょっとそこの検討を早く。まさにあした京都、市役所、府庁も含めて話をするというところではあるんですけども。

【加藤】 ごめんなさい、これはガラディナーというイメージですか。

【岡崎】 ガラのイメージです。

【加藤】 それが結局、Day 0じゃなくて初日の夜。

【岡崎】 初日、9日の夜の想定です。

【加藤】 9日の夜ですね。これがもうほぼ決定ですか。前回からガラディナーがどの日かなと、それに合わせてというか、それを避けてもし個別にサイドイベントをやるとしたら企画しないとけないという話がずっと出たんですけども、もうこれはほぼ決まりですね。

【岡崎】 ほぼ決まりで、まだ正式ではないにしても、9日の前提で話を始めているので、もし何らかの事情で変更があればまたお知らせをいたします。

【加藤】 ありがとうございます。それで場所としては、国際会館の横のプリンスか何かでやるんですかね。

【岡崎】 国際会館の庭って言っていました。ただ、確かにそれ自体、1か所に3,500人が集まれるわけじゃなくて、庭にステージがあって幾つか料理を置いている広いスペースがあると聞いています。それは明日現地を見てどんな感じになるのかというのを見てまいります。いずれにしろ初日、Day 1を前提に調整を始めています。

【加藤】 ありがとうございます。

それと、先ほどの実際のイベントの内容に関して、ハイレベルのリーダーセッションとメインセッションとオープニング、この3つの関係をちょっと教えていただけますか。オープニングというのは何か挨拶があって、リーダーセッションがとか、全部初日にこの辺を固める感じなんですか。メインセッションは4日間のそれぞれのトラックのメインセッションというイメージですか。

【岡崎】 順番に行くと、オープニングセレモニーは初日9日の午前の想定でいつもどおりです。そこにVIPの方、今、招待状を出して返事を待っている国連のグテーレス事務総長も含めたメインのやつがあって、そこに出られるVIPの方が、一般的には前泊をする関係で、閣僚級とかハイレベルが出るセッションは、基本的にはDay 0かDay 1に企画をなるべくするという方向でプランニングを始めています。去年のエチオピア会合のハイレベルリーダーセッションはDay 0とDay 1に3つが全部集まっているという企画のされ方をされていて、今回も恐らくそうなると思っております。

【加藤】 分かりました。それとメインセッションは、1、2、3、4、5うまくばらけてやるって感じ

ですね。

【岡崎】 ちょっとそこはMAGで企画をされるので。

【加藤】 そういうことですね。

【岡崎】 はい。メインセッションは完全にMAGの企画になるので、そこは登壇者の方の、いつおられるかというのも含めての調整になるんだと思います。また日程は私も聞きますけれども。

【加藤】 ありがとうございます。

【岡崎】 メインセッションがMAGマターでハイレベルセッションが国連及びホスト国政府のマターになって、パラメンタリーセッションという議員セッションは、事務局とIPU、列国議会同盟、ジュネーブに本部がある各国議会の団体、機関が企画する。それぞれに企画する主体がちょっとずつ違っていてという状態になっています。

【加藤】 あとvillageについてはどれぐらい参加を呼びかける感じか、まだ決まってないですかこれは。

【岡崎】 そうですね、今、募集中で7月20日までで、なるべく日本からも御参加をとということを国連の側から言われているんですけども、ちょっとどのぐらいお声かけをするのか、実際に今どのぐらい応募が集まっているのか。既にたくさん応募が集まっている中で呼びかけたとしても、スペースがそもそもお約束できないということもあるので、ちょっとその辺も含めて、もうすぐ締切りまで1か月ぐらいになるので、どのぐらいの力量で声かけをするかということも決めていくかなと思っています。

【加藤】 分かりました。私ばかりで、ほか手が挙がらない間に。ユースのほうは、日本からの企画はまだ検討中というイメージですか。

【岡崎】 そうですね、すいません、まだ具体的などころには入っていきたくなくて。

【加藤】 分かりました。その辺ももし今日、この活発化チームの中で少しお考えの方がいらっしゃれば後で触れたいと思います。

【岡崎】 ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。大変広い範囲にわたっていろいろ御検討されているというのはよく分かりましたけれども、皆さんいかがでしょうか。追加でどんな細かい事でも結構ですが、この際。一番生の情報をお持ちの岡崎さんに聞いていただくのがよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。特に今ないですか。後でももし思いつけば岡崎さんなり、その後飯田様が参加されれば伺うということで、取りあえず岡崎さん、ありがとうございました。

【岡崎】 ありがとうございます。すいません、私、実はこの後25分ぐらいに別件で出なければいけなくなったので、すいません、あと十分弱で。慌ただしく一方的に喋って去ってしまっ大変に申し訳ないんですけども。

【加藤】 ありがとうございます。大変貴重な情報をありがとうございました。もし変更やあしたの何か追加で決まったら、ぜひ一言書き込んでいただくとありがたいと思いますのでよろしく願います。

【岡崎】 もちろんでございます。何なりとお問合せ、御依頼などいただければ対応いたしますので、御連絡何なりといただければと思いますので、よろしく願います。

【加藤】 ありがとうございます。もう一つよろしいですか。前回の活発化チームでも高崎の大臣会合のときのレコーディングがパブリックに出ているのかなという質問があったんですが。

【岡崎】 すいません、まだです。編集者が私しかいなくて、ビデオ自体はもうもらっているので手元にあるんですけど、すいません、私の手があいていなくて。

【加藤】 ひょっとすると、日本語の字幕とかは後日ということでも。あのユーチューブが見たいなという方が実はいらっしやいまして、結構そういう問合せがあるんですよ。

【岡崎】 そうでしたら、私がビデオを持っているので、どこかのクラウドに上げます。

【加藤】 何かそういうことで見ていただくと、結構それを参考に。ここにいらっしやる方々は別に日本語の字幕ついてなくてもいいとおっしゃる方もいらっしやるし、CHANGEタイさんのパワーポイント、あれを見るだけで大体分かるので、非常にそういう意味では役に立つのかなと思いますので、もし上げていただくと大変ありがたいと思います。

【岡崎】 どこかに上げます。ただ、現場にあったテレビカメラの撮影映像と配信映像の録画を両方もらっているんですけど、一長一短があって、ビデオカメラの映像ってビデオカメラでしかないので、プレゼンとかヴィントサーフ先生のメッセージとかも遠写しになってしまっているという問題があって、ただ配信録画のほうは音と映像がちょっとずれているので、なので両方をぶつ切りにしてつなぎ合わせて作ろうと思っているので、ちょっとそこで時間がかかってしまっているということなんですけど、いずれにしろ見られるように。

【加藤】 簡単な方法でいいと思います。取りあえず簡単な方法で。

【岡崎】 取りあえず若干の聞き苦しさはあれど、配信録画のほうは恐らく御覧いただきやすいと思うので、配信録画のほうをちょっとどこかに上げてURLを迅速に共有するようにいたします。

【加藤】 ありがとうございます。どうもありがとうございました。

【岡崎】 ありがとうございます。

【加藤】 それでは、引き続きMAGからの報告ということで今、大変な作業されている河内さんから願います。

【河内】 先ほども申し上げましたが、398件を4つのグループで40人のMAGが10人ずつで1人90件とか100件ずつやっていますので、それが今週金曜日までの締切りの予定です。それ多分、全部終わった、採点、点数とかでつけている5、4、5とかというのを集計して、満点が5かな、5点満点で、最低だと5分の1だから1点になるのかな。それを多分集計して、ただ人によってつけ方が違ったりするので、去

年も偏差を使っていたかちょっと忘れましたが、事務局が全部集計した上で結果を出して、その結果に基づいて7月のジュネーブでの会合で議論をして決定すると。去年も270件のうちから70件ぐらいを選んだのに結構時間がかかったので、今年もそれで多分丸一日じゃ終わらないと思うんですね、2日ぐらいかかるんじゃないかなとは思っています。なので、今はその作業がメインです。

それと、ちょっとそれとは別になると思うんですけど、私たちMAGはワークショップの評価をやっていますけれども、それと別途、先ほど岡崎さんおっしゃっていたように、ハイレベルセッションとかはホスト国とかが中心になってやっていると思うんですけど、それ以外のセッションについても提案を事務局でまとめて、ジュネーブの会合では、どういうセッションにどれぐらいの提案が、どういう提案があったとかという報告がある予定だと思っています。ワークショップ以外、ポリシーネットワークとかいろいろありますよね。

あとは、今のところはそんな感じですけども、何か御質問とかもしあれば。簡単に申し訳ないですが。

【加藤】 ありがとうございます。御質問いかがでしょうか。特にないですか。何か俺が出したのはどうなったというのでも。

【河内】 それは私の担当の中に入っていれば、日本人の方のは大体分かるのでと思うんです。多分この中にいらっしゃる方、私90件中まだ35件しか終わってないので。

【加藤】 金曜日までにできないんじゃないですか。

【河内】 いや、頑張ってください。

【加藤】 皆さんよろしいですか御質問は。じゃあ、ちょっと前回と繰り返しになりますが、7月の決定までのスケジュールを皆さんにもう1回共有しておいていただけますか。

【河内】 私から大丈夫ですか。

【加藤】 この金曜日に出されて、その後いろいろMAGの中でとか、事務局がかなり偏差値を調整するんだと思いますが、7月のジュネーブでMAGがあって、何日でしたっけこの7月は。

【河内】 10日から13日です。2週目ですかね。

【加藤】 そのときにミーティングをやって、最終的にワークショップの場合は80かそういうのが決まると。それから、先ほどのメインセッションの進行の概要というのも決まるんですね、そのときに。

【河内】 そうですね、ただメインセッションは、それからアレンジとか調整とか去年はしてたので、内容とかスピーカーとかの話はまだ、7月の会議終わってからになると思います。

【加藤】 分かりました。皆さんいかがでしょうか。御質問ありませんか。

それじゃあ、引き続きお疲れさまですけれども、どうか河内さん、よろしく願いいたします。

【河内】 いえ、とんでもないです。よろしく願いします。

【加藤】 次に、移らせていただくということで、日本IGFタスクフォースの報告なんですけど、実は今日前村さんがICANNのミーティングで出張されていて、どうしても時間のタイミングの問題があって御報告いただけないということでしたので、代わりに私が山崎さんのバックアップのもとに、前回6月7日、先週にIGFのタスクフォースの中のワーキンググループがありまして、ワーキンググループのミーティングの御報告をします。

IGFのタスクフォース自身は、全体の運営委員会というのがこのところまだ開かれていなくて、7月の今、七夕の頃だと思いますが、その辺の時間調整をされていて、そういう意味ではちょっと運営委員会というか、全体の流れのほうはあまり進展がなくて、タスクフォースの中のワーキンググループというのは、今回、ワークショップの提案をするためにいろいろなところに声をかけて案を作って、それを提出すると。最終的にそれをみんなでレビューして出すというところまで作業をしたグループです。そのミーティングの御報告が今、一番新しいものなんですけど、ちょっとタスクフォースの中でもいろいろ議論があって、どなたがどんなことを出したということは、プライベートなことでもあるので明確には申し上げられないんですけども、今年は皆さん、多分この活発化チームでタスクフォースとは関係ない方も御検討いただいたと思うんですが、タスクフォース関係だけでも先週、山崎さん、数字ぐらいは言っていていいですよ、何件確認したというのは。

【山崎】 先ほど加藤さんがおっしゃった個人情報の問題がありますので、統計という形で秋の事前会合のところで話しようと思ったんですけども、タスクフォースからの情報をいただいていますということで、ここで説明しちゃっても構わないと。

【加藤】 ちょっとね、それじゃあそのことはまとめて後でやっていただくとして、タスクフォースで出てきた時点では少なくとも8件を確認しました。タスクフォース関係でお声かけしたりした件です。今の山崎さんがちらっと見せていただいたもう少し広い範囲で情報を集めていただいたということだと思います。それ以外にも一、二件あるだろうということでありました。

それぞれについてこういうことというのはなかなか申し上げられにくいんですが、先ほどの河内さんのお話でも、例えばスピーカーのところには日本人らしい人が出てるとか、そういう情報自身は398件あるけれども、一応は公開されているので、見ようと思えば何となく日本の方が出されているのかなというのは分かる状態なんですけど、今の段階でそれを見ることにあまり意味があるかどうかですけれども、一応タスクフォースで今年お声がけをした結果、かなりまとまって出てきておりますということで、今回は採用率が結構低くなるおそれがありますけれども、何件かはこの中で採用されるといいなということです。

タスクフォースからは、今このワーキンググループの提案を出すための働きかけとそのお手伝いの活動が中心で、それ以外には今のところ御報告することはないと思います。次回、運営委員会を開催するという予定ですけども、それ以外にタスクフォースとして計画していた5つの団体以外にいろいろ声をかけたり、IGFとしていろいろな方に、さらにIGF活発化というかIGFを知らしめる活動をするというのは今まだ進行中という状況です。

山崎さん、何かタスクフォースとしてフォローアップしていただくこと、追加していたことはありますでしょうか。

【山崎】 特に追加することはありません。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。

それでは、御質問等いかがでしょうか、タスクフォースに関して。特にございませんか。これは引き続き出ている山崎さん、加藤からいつでもお答えしますので、もし後で御質問があれば、いつでもお伺いいただければと思います。

それから、NRIとしての連絡先。まず、NRIの活動として、山崎さんと先ほどの河内さんと私加藤が3人、日本からのNRIのリエゾンとして、今、IGFの事務局のほうに登録をされていて、定期的にIGFの事務局と、大体月に1回程度ですけれども、ミーティングをやっています。それで、以前に申し上げたとおり、NRIとしての一つメインセッションと、3つの追加のセッションをやりますということが決まっています、その3つの中で、ちょうど3人、このNRIのリエゾンということで名のりを上げているので、3人が一つずつのテーマについて一応分担して今後対応しようということに今なっています、その中で私加藤は、AI関係のセッションをCollaborative Sessionsと言いますが、これ大体90分ずつ、結構インテンシブにやるんですけども、Collaborative Sessionsについて加藤が担当することになっています。

私からもしゃべり出したんで申し上げますと、第1回目のCollaborative SessionsのAIに関するグループは、20日の夜中の12時というか19日の真夜中といったほうがいいのか、その時間に第1回目のミーティングをやります。それで、AIの関係は日本政府も含めて、今年非常にAIと新しい技術というそういう分野では大変日本も興味を持たれている分野ですので、Collaborative Sessionsにこういう形でやりたいとか、こういうことを中心に議論してほしいとかという提案がそこでできると思います。一応、19日の真夜中のミーティングでは、最初挨拶した後、このセッションでどんなことやりたいかということ各自、意見を述べるという、そういうセッションになっていますので、この場をお借りして、ぜひAIやハイテクの分野について、こういうことやったらどうかとか、テーマの持って行き方もありますし、日本の中にもこういう人がいるからこういうエキスパートの意見も少し聞くようなセッションやったらどうかとか、そういう提案でもいいと思います。何か御意見があればぜひお願いしたいと思います。

ということで、同じように河内さん、山崎さんのほうの分担といいますか、何かございますか。山崎さん、全体の会議についても何かコメントいただければと思いますが。

【山崎】 全体の会議のほうは、先月、各NRIの連絡先が集まってIGF事務局主催でやった会議では、主にメインセッションについて共有されました。NRIメインセッションで普通のメインセッションとは違います。NRIメインセッションでは、国連公用五、六か国語全て通訳がつくということで、各NRIは何か意見とかあればしゃべってよいということでしたけれども、内容について活発な意見交換がされたということですね。特に宿題をもらったということではないんですけども、逆にこっちから何か提案していくことが求められているようです。

もう一つその3つあるNRI Collaborative Sessionsで、私が担当で手を挙げたのはインクルージョンとかデジタルディバイドとかそっちの方面。そちらはまだあまり動けてないんですけども、追って何かあれば、また皆さんと共有したいと思います。

私からはそんなところですよ。

【加藤】 デジタルディバイドに関しては、第1回目のミーティングやるという案内まだ来てないんですか。

【山崎】 まだいただいてないと思います。

【加藤】 そうですか。AIのほうは、大分かなり早い時期にいつがいいかというのがあって、私は投票負けて夜中の12時スタートになっちゃったんですけど、多分そんな感じのがそのうちあるかもしれないですね。

【山崎】 はい。

【加藤】 分かりました。河内さんはいかがですか、何かもう一つ。

【河内】 サイバーセキュリティはいつがいいかというのが来ていて、もう締切りも過ぎているんですけど、その後、26日にあるというのがそれですかね。

【加藤】 多分そうだと思いますね。もし26日っていえば。全体のメインセッションというかNRI全体のほうは26日じゃなかったと思うな。

【河内】 ちょっと何かいろいろ来ていて錯綜してるんですけど。サイバーセキュリティのほうは、Doodle poll (オンライン投票システム) でやってるので、多分それでそうなっていると思います。すいません、そこから先はまだ進んでないです。

【加藤】 ちょっともう1回繰り返しになりますけれども、このNRIということで結構時間をとれることになっていて、今のメインセッションというのは全体的なことをカバーしますということで、これIGF全体セッションのメインセッションとも似てるんですけど、まだそういう意味では完全に中身は固まっていないんですが、それ以外にAIとか新しい技術の分野のCollaborative Sessionsとデジタルディバイドのセッションとサイバーセキュリティのセッション、この3つのCollaborative Sessionsがそれぞれ1日ずつ90分ずつありますと。NRIということで各国からそれに関して、自分たちの事情はどうだとか意見はこれだということをするような立てつけで、いろんな国から参加する内容について今、検討が始まったということです。これも結構日本からこういうことを言いたいということになれば、結構いろんなことが言えると思うんですね。そういう意味で、今、申し上げた河内さん、山崎さん、加藤に、この3つのことについてこんなこと言ったらどうかとか、日本でこんなこと起こっているからその報告してくれとか、自分がそれに出たいというのももちろんいいと思いますので、というかあの人を出してもらいたい、そういうのもいいと思いますので、ぜひインプットいただければと思います。

【河内】 すいません、今見たらやっぱり、NRIのメインセッションの次の会合が26日ですね。

【加藤】 そっちでしたっけ、ごめんなさい。

【河内】 サイバーセキュリティまだ来てないです。すいません。

【加藤】 分かりました。じゃあAIだけ何か先に。

【河内】 そうですね。

【山崎】 インクルージョンですけれども、メールが漏れてなかったんですが、22日に初回の打合せやるという連絡は来てました。

【加藤】 そうですか、はい。

【河内】 来てないんだよね、それ。分かりました。すみません。

【加藤】 タイミング多分、3つとも似たようなタイミングだと思うんです。だから、ぜひあと1週間ぐらいの間に今の3つのテーマでNRIということで、先ほどのワークショップに提案された方なんかも近い部分結構あると思うんですけれども、この際、そっちのNRIのほうにも乗っかるという感じで、いろいろと御意見いただけると大変ありがたいなと思います。

AIで言うと、19日の夜中の場でこういうことをぜひしゃべりたいという人がいますと言うと結構影響力あるのかなと思っていますので、よろしくお願いします。AIセッション6月19日から20日、正確に言うと20日夜中の零時から一時ですけど。

【山崎】 それは日本時間でということですよ。

【加藤】 日本時間です。

【山崎】 基本は現地時間ベースで。

【加藤】 そうかそうか、じゃあ19日ですね。ありがとうございます。そういう感じですね。

御質問ありますでしょうか、皆さん。

それでは、ごめんなさい、そちらを先やっちゃったんで、ごめんなさい8番と僕ちょっと混同しちゃいましたので、7番のNRIとしての連絡先というのは何でしたっけ。IGFの、山崎さん、CGのあれ何でしたっけ。コーディネーショングループですね、ごめんなさい、何でコーディネーショングループって出てくる。

前々回の活発化チームのミーティングで、コーディネーショングループということで今そのNRIのリエゾンというものを登録している形になっているので、そのコーディネーショングループとして、今後、私はもともとそのグループにも入っていたんですけれども、河内さんとか山崎さんの名前を入れていただいたほうがいいんじゃないかという御指摘があって、これがちょっとペンディング事項になったんですね。それを追加するとして、コーディネーショングループのお話なんですけれども、そこを加藤もしくは前村さんから調整をするということになって、これがそのままになっておりました。

大変申し訳ないんですが、実は前村さんともお話をしまして、少し関係者ともお話をして検討させていただいたんですが、現時点ではこれ私の考えでは、そのコーディネーショングループをどうするかというか、今のコーディネーショングループの現状といいますか役割というのはこの1年間全く動いてなくて、CGが今後どうなるかということもまとめて今後検討していったほうがいいんじゃないかと、ここでCGにこれを加えるということ、CG会合をするなり皆さんに呼びかけてそれをやるということの意味がどうなるかというのは、ちょっとそういう指摘もありまして。これは継続的に今後、京都

会合以降、10月以降、タスクフォースやこの活発化チームがどうなるかという問題と併せて考えるべきなんじゃないか。私は今そういう気がしてしまっていて、前村さんもすぐなかなか先に進めないということで、今、ペンディングになった状態です。

さっきから御報告しているとおり、NRIのリエゾンということでは今3人が実質的に参加させていただいて、こうやって報告もさせていただいているということで、現状は特に支障もないので、このNRIの連絡先変更、そのことだけではなくて、コーディネーショングループが今後どうなるかというのは、もう少しタスクフォースや活発化チームの今後を検討する中で検討したほうがいいんじゃないかということをおもっています。

ということで、加藤または前村さんに宿題をいただいたんですけども、進んでいませんということのおわびと言いつついいですか、今ちょっとそういうことを申し上げたい次第です。

山崎さんから何か付け加えていただくことはありますか。山崎さんが大変御苦労されて、いろんなチャートを読んでいただいたりとか、付け加えるとしたらどうすべきかと御提案いただいたんですが。今、ちょっと言葉は語弊があるかもしれないですけど、この問題をこの時点でこういう方向だと提案することがなかなか皆さん難しい状況なんじゃないかなと思いますので。もう少し今後のIGFのグループの進展を見た上で、3つグループがあるよということ自体も非常に複雑なことでありますので、NRI問題に関してコーディネーショングループの在り方をここで議論するという事は避けたいなと思っています。

山崎さん、何か追加なり、違うぞという御意見でも結構なんですけど、いかがでしょうかね。

【山崎】 私の意見はあんまり言ってもしょうがないと思うんですが。

【加藤】 そんなことないです。

【山崎】 2か月前は先ほどの資料、todo試案というところに書きましたけれども、3段階に分けてという段階を踏んだ、なかなか進まないんじゃないかと思ったものですから、そういう御提案をさせていただいたんですけども。正直、それを議論した際にあまり意見は出てなかったとは思っています。方向転換をするのは別にやぶさかじゃないんですけども。

そうですね、ちょっと今日は参加者が少ないですし、あまり御意見が今のところ出てないという感じなんですけども。出席されている皆さんから御意見を伺った上で、意見が出ないようでしたら加藤さんからその方向転換について御提案いただければいいんじゃないかとは思いますが。

【加藤】 私としては、今ちょっとこの問題はコーディネーショングループ自体を今後どうするかということに関わってくるので、取りあえずその活発化チームやタスクフォースの今後の様子を見ながら継続議論ということで、ここでコーディネーショングループの内容を変更するというようなことを活発化チームの議論の中で提案するという事は避けたいなと思っています。

【田畑】 すいません、総務省の田畑と申しますが、一言よろしいでしょうか。

【加藤】 お願いいたします。

【田畑】 機会をいただきましてありがとうございます。

本件については、以前データ通信課の西潟課長から何度か問題提起させていただいているところかと思えます。

おっしゃっていただいたとおり、直近でやるべきことをやるのも非常に大事だと思いますので、そういった作業自体には異論はございませんが、むしろ、先ほど加藤様からもお話がございましたとおり、IGF 2023が終わった後のことをしっかり考えていかないといけないと考えております。

その中でコーディネーショングループの現状は、過去の経緯もあってというところだとは思いますが、少なくとも現時点において、この活発化チームが日本で最も活発にIGF活動を行っている場所の1つでもあるということから、議論そのもの、コーディネーショングループと活発化チーム、そして、さらにプラスアルファあるかもしれませんが、そういったところの関係というのは、この場で今後も皆さんの御意見をもち寄って議論をさせていただければというふうに考えておりますが、いかがでしょうか。

【加藤】 ありがとうございます。当然、引き続き検討をさせていただくということで、これはタスクフォースの宿題でもあるし、活発化チームの宿題でもあるし、コーディネーショングループの宿題でもありますし、実はその3つのメンバーはほとんど重なってはいるんですけども。その辺を含めて、どういう形で10月以降日本でIGFを進めていくかという議論の中でやるということで、それぞれが継続審議ということでいかがでしょうかということだと思います。これを忘れるということではもちろんない。むしろ非常に重要なことだというふうに皆さん思っていらっしゃると思います。

【田畑】 どうもありがとうございます。

このIGF 2023、皆様で力を合わせてまずは成功させていくということも非常に大事ですし、そのIGF2023の後、日本のこのインターネットコミュニティーが発展していくということも、特にデータ通信課、そして総務省全体としても非常に重視しておりますので、ぜひこの点については引き続き議論させていただければと考えております。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか、御意見ございますでしょうか。

今、田畑様からうまくまとめていただいて、このことはもう議論しないということではなく、むしろ非常に重要な問題なので継続して検討するという趣旨だと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思えます。

10月が近づいて来るともう一気にみんな忙しくなって、その先のことまで考える余裕がなくなるかもしれませんが、実はこのIGF活動を継続してやっていくということは非常に重要なので、この問題はまさにその根幹的な問題だと思いますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

【田畑】 どうもありがとうございます。

私もコーディネーショングループの一員でございますので、皆様とまた引き続き御議論をさせてい

ただければと思います。

【加藤】 そうですね。よろしくお願いします。

では、今、一気にNRI Meetingに関する報告という8番目の議題もカバーしてしまいましたので、その次に移りたいと思います。

9番目の議題、国内事前会合、9月の前半、第1週頃を予定しております。今年のIGFジャパンの会議について、これは山崎さんがやっていただくのもいいのか、私がやればいいのか。

【山崎】 私がやりますよ。

【加藤】 お願いできますか。

【山崎】 とはいえ、先ほど出たような感じのことしかやっておりませんで、具体的には、国内からIGF事務局が募集したセッション、提案募集にどなたが応募されたかという情報を集めている状況です。主にタスクフォースから技術コミュニティの方々の提案をいただき、あとは、直接メールとかでも情報をいただきましたので、そこそこ集まっておりますが合計12件ということで、さっきの8件にプラス4件ということになります。

本家のIGFのサイトでワークショップの募集状況、応募セッションを全部公開されているんですけども、その提案者については伏せられていてステークホルダー種別だけが書かれているということで、やはりちょっと選定中でもあるということで、あまり個人情報をむやみにさらすことはよろしくないだろうという提案がこの準備委員会の中でございましたので、ちょっと統計として、どういうセッション種別があったか、提案者が所属するステークホルダーの種別はどんなものがあるかという2点だけお伝えしたいと思います。

セッション種別については、圧倒的にワークショップが多いですね。そのほかには、ネットワーキングセッション、ライトニングトーク、Day 0のセッションがそれぞれ1つずつというふうになっております。

提案者が所属するステークホルダーの種別ですけれども、これは技術コミュニティが一番多くて、次いで民間セクター、プライベートセクターですね、これが2件で、市民社会と政府からそれぞれ1件という情報をいただいております。

あとサブテーマですね、その8つあるIGF 2023のサブテーマでどれに該当するかというのは、これ全部情報が得られてなかったのちょっと推測も混じっていますけれども、サイバーセキュリティが一番多くて、その次はデジタルディバイドとインクルージョンが2つです。グローバルデジタルガバナンスとコーポレーション、これが2つ、データガバナンスとトラスト、これが2つ。AIとエマージングテクノロジー、これが1つというふうになっております。

極力いろいろ集めるようにはしてきたつもりですけれども漏れている場合もございますので、これが全部というわけではない可能性があるということになります。

私からは以上になります。

【加藤】 山崎さん、ありがとうございます。大変御苦勞をいただいてこれを集めていただいたんですが、どういう提案を誰がしているというのを伺うするのも若干センシティブな面があって、採用されなかった場合ということも考えると、なかなか今すぐに私はこういうのを出しましたと言いたくないという方もいらっしゃるのかなというふうに推測をして、その辺の扱いを注意しながらやっていただいたんですが。

これはちょっとおさらいになりますけれども、このIGFの活発化チームの中で、今年の9月、日本IGFの会議をやりますという場合に、また例年のように大々的に新たなセッションの募集をして、そこで選定委員会をつくって選定をして、最終的に幾つかを選んで準備をするというやり方ではなくて、むしろ10月の京都会議の助走として、基本的には10月に採用された方が、ちょうど2日間、例年やるとしたら、4つ、5つ出てくればいいんですけども、そうでなくても、提案はしたけれども採用されなかったというのも、予備といいますか、そういう方もここで御披露いただくようなこともあっていいんじゃないかと。そういう前提で、この準備委員会として9月のIGFジャパンに向けて、テーマを検討する前提として何か提案したのであればぜひ教えてくださいと呼びかけをしたという経緯があります。それが活発化チームのほうですね。

先ほども御報告したタスクフォースのほうは、もう少しワーキンググループをつくってぜひこういうのを出しましょうという方で積極的に参加したので、もう少し近いところからこういうものを出したという報告が上がってきているんですけど。それもそのままほかに、タスクフォースに入っていない方に直接そのままぱっと出していいのかという問題もあって、その辺をうまく考慮しながら今回山崎さんがまとめていただいた資料だということでございます。

ということで、12件、今、出ているようであると、少なくとも12件出ているようであるということで、例年に比べると多いのではないかと思います。ぜひこの中の多くが採用されればいいなと思います。

何か御質問はございますか、このまとめと。山崎さん、一番最後のテーマについては足すと11になるのは、ちょっと分からないのが1つあるということですね。

【山崎】 はい、そうです。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 ワークショップですと提案が公開されているのでそれを探せばいいんですけど、ワークショップでないものは分からないというか、御提案いただいた方に聞いて確認すればよかったですけど、ちょっとそれが間に合わなかったので全部そろってないと形になります。

【加藤】 分かりました。

繰り返しになりますけど、この活発化チームとして、そういう趣旨で、ここで提案していただいた内容をぜひいろんな形で御披露いただきたいので、最終的には9月の日本IGFでもしゃべっていただければという趣旨で今回伺っているということです。

本件はよろしいでしょうか、御質問等ございますか。

もしなければ、次、10番目、広報活動における講演資料等のCCライセンス導入の推奨に関する提案ということで、これは活発化チームのほうに田中先生、先ほどおいでになりましたよね、田中先生のほうから御提案をいただいている内容ですので、まず、少し内容を御説明いただけますでしょうか。

【田中（恵）】 ありがとうございます。

初めましての方もいらっしゃるでしょうか、田中恵子と申します。この活発化チームのボランティア参加という形の立場でちょっと御提案させていただければと思ひまして、このような議案をいたしました。

何かと申しますと、先ほどチェンゲタイ事務局長の動画やG7の高崎でのサイドイベントの動画について視聴したいという声があるもののまだ上がっていないという話があったかと思うんですが。今後そのIGF 2023年京都開催にあたって、インターネットガバナンスに関するセミナーだったりとか、啓蒙活動をこの活発化チームに携わられている皆さんでされる機会というのが多いかと存じます。

そうした際に、動画ですとか講演資料といったマルチメディアコンテンツの公開を進められていくかと思うんですけれども、これらのコンテンツ公開に当たりまして、IGFの行動規範に基づいて著者を明示して、例えば非商用目的であればライセンスをオープンにしてもいいというような形で推奨いただいて、その資料を第三者が活用できるように、いわゆるOpen Educational Resourcesというんですけれども、オープンな教材としてネット上でいろんな方が活用できるように、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスを採用するというのを積極的に推奨いただけないのかなというのが私の提案でございます。

Open Educational Resourcesというのは、ユネスコのほうでも勧告を2019年に出しております、日本もあるなという認識にはなっているものの、あまり皆様、耳にされることがないのかも分かりませんが。今回、提案募集もたくさん出ているということで、日本での活動が盛り上がってきているところかと思うんですけれども、例えば若い方、学生の方とか、例えばインターネットガバナンスを少し授業で触れたいんだけど、定まった教科書があるわけでもないし、かいつまんで紹介したいときはどうしたらいいんだろうというときに、この活発化チームの関係者の皆さんで公開した資料を活用してもらおう、例えば大学教員の方に活用してもらおうようなことを促すのに当たって、ライセンスを少し開いていただけないでしょうかということで、次のスライドお願いいたします。

オープン教材に相当するクリエイティブ・コモンズ・ライセンスというのが、この左のチャートのOERという青い矢印の範囲になります。クリエイティブ・コモンズについては皆さんも御存じのことかと思ひますので、説明は割愛させていただければと思うんですけれども、決して著作権を放棄するわけではなく、著作者の情報はしっかりと表示をしてもらい、必ずそれを表示した上で活用いただくということで、CC-BY、CC-BY-NC-SAといった分類でライセンスを選択していただくことができます。

これをどれにするか、例えば非商用であれば活用してもいいよというのであればBY-NC、非商用で何かそれをリミックスしてつくった場合は、同じようにCCライセンスにしてくださいというのであればBY-NC-SAという形になるんですけれども、これは著作者もしくは公開される権利を持っている方が自身で選択いただくものであって、この会の中で絶対にこれにしましょうというふうに定めなく

てもいいのかなと思っております。どれを選んでいいか分からないときは、この3に書いてありますクリエイティブ・コモンズの「/choose」というところにアクセスしていただくと、こちら日本語でライセンスの選択の補助ツールがございますので、御活用いただければと思います。

同様に、ユーチューブ動画につきましても、過去の公開した動画、基本的にはユーチューブに動画をアップすると自動的にall rights reservedになってしまいます。それを、例えば授業で見せるとかしたときに著者に確認を取らなきゃいけないというふうになってしまうと不便ですので、設定のところからCreative Commons Attribution、これはCC-BYと同等のライセンスになるんですけども、こういうふうに少しオープンなライセンスにさせていただくのはいかがでしょうかという提案です。

どうぞよろしくお願いいたします。

【加藤】 すいません、それで終了でよろしいでしょうかね。

皆さん、御質問とかございますか。すみません、若干沈黙があるので、誰か。私も詳しい中身はよく分からないので、ちょっととっぴな質問というか、まずスタートですけれども。

これ、例えばこの活発化チームの議事録とか活発化チームのいろいろなチャーターだとか、そういうもののおっしゃっているのか、先ほどちょっと申し上げたように、活発化チームが9月に日本IGFの会議をやるときに、そこで発表される方のパワーポイントでプレゼンをやられる場合はそういう資料のことを言っているのか、またはそれら全部なのか、何を想定されているのかということのをまず1つ伺いたい。それから、それらについて、これをぜひやるように活発化チームで決議してくださいということなのか、活発化チームの場でも何かこういうものを推薦してください、それが好ましいですよということをいろんなところで言ってくださいという御提案なのか、ちょっと御提案の内容を伺えないかなというふうに思います。これで次に何をしたいかということはこのグループで決めるに当たって、ちょっとその御提案のスコープと申しますか、それを教えていただければと思います。

【田中(恵)】 ありがとうございます。あまりまとまってない中での提案になってしまっていたら本当に申し訳ないなと思うんですけども。

まず、どういったコンテンツをCCライセンスにさせていただくのかということについては、議事録等は発言者の中身等もございますので、あえてこう改造したりとか、それから教材として使ってくださいという性質のものではないと思います。他方、先ほどお話があったような動画、講演動画ですとかスライド等については、皆さんにもっと知っていただきたいという内容でしたら、そういったものについてCCライセンスにさせていただきたいと思っております。

これは、あくまで著作者もしくはそれを公開される方が自身のものだとして全ての権利を持っていてCCライセンスにしているよということであれば、CCライセンスを採用いただくことができるのであって、そうでない場合に無理やりCCライセンスにさせていただこうと思っているものではございません。ですので、例えば9月の事前会合の中で、推奨という形はしていただけるかと思うんですけども、その資料をどういう形式で公開するかというのは、その権利を持っている方の意思になるかと思います。

ただ、これまでの活発化チームでの取組の様子を拝見していると、オープンであることですか、

アクセスを増大させる、インクルーシブにやっていきたいという趣旨のコンテンツであれば、何も考えずに公開するとall rights reservedになってしまうので、ちゃんと意図を持っているのであれば、それにふさわしいクリエイティブ・コモンズ・ライセンスのCC-BY-NC-SAとかCC-BYなどを御利用されるように御推奨いただくということかなと思います。

本来でしたら、何か条文のような形で、私のほうでポリシー案みたいなものをつくって、それを組織の中であれば採用いただくという形になるかと思うんですけども、そんなにカチツとしたガバナンスの中で活発化活動をされているというわけではないかなと思いますので、一旦そのアイデアとして提示させていただいております。もっとこういう形のほうが決を採りやすいだとか、そもそもその決を採るような座組のシチュエーションなのかというのが私のほうでうまく認識できておりませんで、一旦このような形で御提案させていただきました。

【加藤】 すいません、もう一つ質問ですが。ちょっと私も理解してなくてあれですが、IGFの行動規範にCCライセンスって何か書いているんですけど。行動規範って最初に出ていましたけど。むしろIGFの事務局なんかは、もう一切著作権は持たないというふうなぐらいまでいっているのかなとも思いましたけど。この（下記カッコ内）に基づきって、これCCライセンスというお話でしたっけ、この参考というところ。

【田中（恵）】 いえ、IGF本体のサイト自体は国連のコピーライトがサイトの中では明記されていまして、国連のサイトの全てのサイトに採用しているのと同じコピーライトポリシーが採用されております。私が申し上げているのは、その著作権のポリシーということではなくて、IGFのコードオブコンタクトの中で挙げられている価値観ですとか、ミッションということに対してクリエイティブ・コモンズ・ライセンスが相性がいいのではないのでしょうかという意味で書かせていただきました。

【加藤】 ただ、このグループも基本的にはIGFが行動規範なり、何か実際プラクティスをやっていればそれに準ずるのが自然なのかなというふうに思います。それでちょっと質問させていただいたわけですけどね。

【田中（恵）】 実際、そのIGFのサイトの中身だったりとかにおいてクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを採用していますというのは、IGFのサイトに限っていうとあまりされていないですね。

【加藤】 うん。

【田中（恵）】 ほかの、例えば国連関連のレポートなどについてはクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを採用しているものが非常に多いです。

【加藤】 ああ、そういうことですね。

何か今度、京都でこれを提案していただくといいような気がしましたね。オープンというならCCライセンスがいいんじゃないかとかね。もっと言うと、アメリカ政府は政府のものは全て著作権放棄するというのは、もうこれは憲法上の考えであるようなことになぞらえて、こうあるべきだみたいな議論をグローバルでやっていただくには、これは非常に面白いテーマかなと。

【田中（恵）】 ありがとうございます。

【加藤】 まさにIGFのテーマのような気がしますけどね。このチームで何か……。

【田中(恵)】 物すごくボトムアップに提案させていただいているんですけれども。実際にはこれ、ユネスコからOERをやりたいというふうに、方針をつくっているのはユネスコでございますので、そこの連携という形がIGFの中でも生まれてきてもおかしくないかなというふうには思います。

【加藤】 そうですね。ただ、これも全くの想像ですけど、IGFに参加されているのはいろんなマルチステークホルダーの方がいらして、例えばビジネスの人が自分がプレゼンテーションするのにCCコモンズは絶対嫌だという方もいらっしゃるかもしれないので。その辺、いろんな人の意見を聞いてその中でコンセンサスをとっていく作業になるのかなというのはいちよと。どこまでの御提案をされるかということに関わるんですけれども、ちょっとそういうことも考えたりした次第ですけども。

これはUNの全体的なポジションなんですか、著作権は。

【山崎】 はい、IGFのサイトの一番下のところですよ。

【加藤】 そうですよ。IGFのサイトですね。

【山崎】 IGFだけじゃなくてUN全般のサイトの。

【加藤】 そうですね。

【田中(恵)】 サイトはT&Cがこういう感じになっていて、個別のレポートとか資料とかを公開する場合は、著者一覧と権利というのがまた別途記載されているという形ですね。

【加藤】 という意味で、ぜひ田中先生から、こういうものはこういうふうにしたらいという、もう少し具体的にさせていただけると議論が進めやすいのかもしれないです。先ほどの議事録等は入らないと。ただ、IGFジャパンのミーティングをやる時にそこでスライドとか講演をする人はぜひCCライセンスでやってくださいということですよ。それを推薦しますというので、強制はしないと、そういう御提案ですかね。

【田中(和)】 すいません。

【加藤】 はい、同じ田中さんですけど、よろしくお願いします。

【田中(和)】 ITU協会の田中でございます。

すいません、この場の議論の本質ではないのかもしれないんですが。

うちの仕事ではあまり関係ないですけど、クリエイティブ・コモンズについては、かなり昔から関わっているので質問なんです。もともとは音楽等の著作物について改変しても構わないというスキームがクリエイティブ・コモンズだったと思うんですけど。その認識はよろしいでしょうか。

もう一つややこしいのは、日本は法律的に著作権を放棄できないので、本質的な放棄ができないですよ。著作権もいろいろあって、肖像権とか使用权とか改変権とか幾つかあるわけなんですけど、一般的には著作権の一言で議論しているので訳が分からなくなってしまうと私は思っています。正直言って、ここで議論されている内容は、モディフィケーションを前提にしているマテリアルというこ

とになると思うんですね。だから国連のやつはいじってくれるなということがかなり厳しく書いてあるんだろうと思います。そういう意味では、Right To Useに関してかなり緩めるというメッセージは非常に意味あると思ったんですね。広く、みんな、見てくださいという意味では、Right To Useに関しては、こういった流れに乗せればいいと思うんですが、Right To Modifyについては、むしろそのガードをかけたほうがいいかと思うので。ちょっとその辺をよく分かってもらわないと、恐らくこのIGFに関わっている皆さんにとっては、ちょっと誤解とか違和感があるんじゃないかなと思いました。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

【浜田】 よろしいでしょうか。

【加藤】 浜田様、お願いします。

【浜田】 私も基本的に賛成です。そもそもこういうCCライセンスということ自体が一般的にはその認知度が十分高くないように思いますので、何かプレゼンテーションなどで資料を出されるときに、少なくとも、そのCCライセンスをつけますかというような選択肢を示すということだけでも、こういうものがあるのかということを知っていただいて、それで詳しくはこちらを御覧くださいみたいなふうに案内をしておけば、徐々にこういう形が、認識が広がるんじゃないかというふうに思います。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

【山崎】 山崎ですけど、よろしいですか。

【加藤】 お願いします。

【山崎】 事前にお伺いさせていただいたんですけども、これの対象となるマテリアルということで、今後、追加されるものだけなのか、過去に遡って、例えばこの活発化チームでプレゼンテーションを伴うイベントは合計6回ぐらいあったと思いますけども、その過去に遡って全てのプレゼンテーションを探し出して、個別にクリエイティブ・コモンズをつけてよいかと聞く作業が必要だと思うんですけども、過去に遡って全部やるという場合は。そこまでやったほうがよいとお考えなんでしょうかという確認です。

【田中（恵）】 私の意思が何か通さなきゃいけないということは何もないと思うんであれなんですけれども、聞いてくださって大変恐縮なんですけど。

趣旨としては、インターネットガバナンスに関心を持つ人を増やすということとして、今携わっている方が、それが多大な負荷になってしまうというのはあんまりポジティブじゃないなと思いますので、煩雑になるようでしたら、無理して遡って過去のものまで必ずしもやらなくてもいいかなと思うんですけども。合意をとれたところから少しでもCCライセンスの資料が増やせるといいのかなという意味でございます。

【山崎】 ありがとうございます。別に煩雑になってもやったほうがいいというふうになれば、もちろんやりますので。そこはこのチームの皆さんの議論を尊重したいと思います。

【田中（恵）】 一応、クリエイティブ・コモンズ・ジャパンの方にもこの資料を一旦見るだけ見ていただいております。またちょっとまだ緩い段階での提案となってしまいましたが、このグループにとって、どういう情報のものが一番いいのかというのを続けて検討させていただきたいと思います。

【加藤】 ほかの方、いかがでしょうか。何か御質問とか。

【田中（和）】 すいません。

【加藤】 はい。

【田中（和）】 ということで、クリエイティブ・コモンズというと、逆にちょっと難しい感じがするかなと思うんで。例えば、この場で議論されている内容というのは引用歓迎とか転載、ほかに掲載することを歓迎、そういうことかなと思っておりますが、そういう感じで合っておりますでしょうか、田中先生。

【田中（恵）】 ありがとうございます。今いただいたところ、ちょっとだけ補足させてください。

まず、日本の著作権の考えている教育利用のところのスキームと、多分、国際的なもしくは英語圏のところのスキームは少しやっぱり違うところがございます。まず、1つずつお話しさしあげますと、まずCCライセンスを導入することによって著作権を放棄することにはなりません。著作権放棄する場合はパブリックドメインですのでゼロになります。著作権放棄をするわけではございません。

それから、Right To Useというような形で今書かれている、これ、利用許諾のところなのか、それとも翻案案件のところなのかということで、著作権と言ったときに翻案だったり利用だったりというところで、本当は細かく権利の違いがあるんだよというところの御指摘かと思います。これについては、CCライセンスになじみのない日本の方にとっては、ちょっと補足しないと今のような御質問が発生してしまうんだなということを理解いたしました。

その翻案の部分なんですけれども、例えばどういうふうに翻案するかという想定が、例えばガードしたいというふうに思われている部分というのは、例えば間違った情報を誤って意図的にディスインフォメーションみたいな形で変な情報を書き換えられてしまうというのは困るということでガードされたいという意味かと思うんですけれども。それ以外の場合に、例えば後ろのデザインを変更しましたとかフォントのサイズを変えましたというのは翻案に入ってきますので、どちらかという、そういういい趣旨で変更する場合も現在だと個別に許諾を取りにいかないと何もできないという状況で、その風穴としてCCライセンスというのが考えられますということになります。

ちょっと時間たくさんいただいてしまってすみません。

【田中（和）】 それで、申し上げたかったのは、すいません、転載歓迎とか引用歓迎という、ちょっと分かりやすいというんですか、一般的に耳にされる言葉を提起したらどうかなと思った次第です。

【加藤】 ありがとうございます。

ちょっとこの議論は、議長の独断で大変恐縮なんですけど、結構根が深いというか奥が深い議論で、もう少しこの場でも議論させていただいたほうがいいのかなと。正直言って、この日本のIGFのチームが、ある人々でCCライセンスを全面的に採用というか推薦するということが決まったということ、世界中からいっぱい議論が出ると思うんですね、CCライセンスが一番適当か。さっきも申し上げたようにIGFというのはマルチステークホルダーでいろんな考えの人がいますから、著作権に関していろんな考えの人がいますから、それを1つのものがすばらしいというふうに決めてしまうことの意味というのはすごく奥が深いと思うんです。だからそういう意味で、かなり時間をかけて慎重に検討したい。場合によってはこのこと自体が、さっきも申し上げたように、国際IGFもそうだし日本IGFでも1時間、2時間、専門家がディベートしてもいいんじゃないかというぐらいの問題だと思います。

今、もう1人の田中和彦さんがおっしゃられたとおり、CCライセンスで著作権を保持して翻案だけ規制するのがいいのか、それから場合によっては、どうぞコピーなり自由に使ってくださいというのがいいのか、著作者人格権とかそういう問題があるにしても、著作権のかなりを放棄というかパブリックドメインにしちゃうのがいいと思っていられる方、いろんな人がいると思うんですね。一方、企業の方なんかは、どれも嫌だという方もいると思います。そういう人がこの会議の中で入りにくくなるというふうにもしなるとしたら、それはそれでやっぱり問題もあるので、マルチステークホルダーで、これがいいということを決定じゃなく、それじゃなくてももう発言させないとかということじゃないにしても、何らかの方向でこれがいいというふうにこのグループが決めるというのはすごい重い意味があると思います。そういう意味で、CCライセンスが本当にこのグループとしてなぜ最適で、みんながそうすべきだと、それを推薦すべきだということであれば、もう少し時間をかけた議論が必要かなというふうに私は思います。

田中先生、ちょっとそういう感じで、結論が出ないことなんですけど。

【田中(恵)】 そうですね、1つに定めるということになると、今のように専門家会議を何回か招集させていただいてポリシーを定めるということになってしまうと思うんですね。

【加藤】 ええ、その必要があると思いますね。

【田中(恵)】 そこまでこう強いエネルギーを持って推し進める場合はそういうことも、それはそれでいいものができるかと思うんですけれども。そういう力が続かないという可能性もあるかなと思っして。あくまで個人が御自身で何かインターネットガバナンス関連の催しに携わって資料を公開するときに、積極的に採用されてはいかがでしょうかというところで、本日の私の提案はそこまで閉じさせていただければと思います。

【加藤】 ということは、このIGFの活発化チームとしてそれを推薦するというのも、何も決めなくていいということですね、今日そういう話を伺ったという……。

【田中(恵)】 そうです。もともとそういう議決のシステムとかがどういうふうにあるのか今のところ存じ上げないので。

【加藤】 いや、まあ議決といえば、このグループでこうだと言って議事録を残して、一定期間コメントがなければ、活発化チームとしてはそういう方向で、皆さん、コンセンサスがとれたということになるんですけれども。そういう内容にしては少し重いんじゃないかなというのが私の意見なんです

けどね。

【田中（恵）】 おっしゃるとおりだと思います。

【田中（和）】 また、余計なことを言いますと……。

【加藤】 お願いします。

【田中（和）】 オープンソースソフトウェアで似たようなというか、GPLの議論があると思うんですけど。オープンソースはちょっと違いますよね、あれは1つのパッケージとして、同じライセンスでパッケージを組まないライセンスがコンフリクトしちゃうんですけど。この場っていろんなライセンス条件のドキュメントが集まり得ると思っています。そういう意味で推奨とおっしゃっているんだろうなと私は思っています。

だから、強く決める必要はないんですけど、要するにCCって聞いたらやっぱりフリーダムを感じるわけですよ、自由だと。そこのニュアンスをどうやって伝えるかという御提案じゃないかなと私は思ったんですよ。すみません、勝手な解釈なんですけど。

そういう場だというメッセージをどうやって皆さんに分かってもらうかということではないでしょうか。

【加藤】 うん。そう意味ではオープンでインクルーシブでというようなこととか、それから会議の議事録も、ほかではなかなかあり得ないんですが、議事録であろうとこのレコーディングもみんな公開すると、そういう方針でやっていますので、そういう意味では非常にオープンな、もうこれぐらいオープンな会議ってあまり普通ない場だとは思っていますけれども。そういう精神はIGFの精神だというのは、もうそのとおりだと思います。

田中先生、よろしいでしょうか。そういう議論を踏まえて、引き続き何かCCライセンスがこうすばらしいとか、私も勉強したいと思いますので、ぜひいろんなところで、そういうお話をいただければなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

【田中（恵）】 ありがとうございます。結構お時間いただきまして、ありがとうございます。

【加藤】 では、この件は取りあえず、非常に貴重なこういう御意見をいただいたということで、引き続きそういうお話があれば、またこの問題を取り上げるというふうにさせていただきたいと思いません。

ということでこれで、今日の議事項目は終わりですね。todo確認ということでいいますと、引き続きということであれば、特に今日新しく出てきたということはなかったと思いますが。引き続き、特に9月のIGFジャパンの準備委員会のほうで何か進展があればそのフォローをするというのが動いていることかなというふうに思いますが。

山崎さん、何かほかに、これというアサインメントみたいなものはありましたっけ。

そういう意味では、NRIの3つのコラボティブセッションのテーマについて、ぜひ何かインプットをNRIのグループにいただければというふうに思います。コラボティブセッションの3つのテーマについ

てインプットがあればいただきたいということですね。

それぐらいじゃないですかね。山崎さん、何かありましたっけ、ほかに。

【山崎】 あとは明示的にはないですけども、さっきCGという話が出てきましたけれども、今後どうするのか。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 やり方はいろいろあると思いますけども、すぐ10月は来ちゃいますので、いつまでに何をするかというスケジュールですとか、何か段階を決めて議論していかないと間に合わないんじゃないかという気がいたしました。今後、この活発化チームですとかタスクフォースですとかCGとか、それを衣替えて後継ぎの 物にするということになるんでしょうけども、それをどういうふうに進めるかという議論をある程度区切って進めないと間に合わないんじゃないかという気がします。

【加藤】 分かりました。昔、この活発化チームで、そういう意味では法人化というのが、去年の今頃、非常に熱心に行われて、それが今タスクフォースとの関係でも凍結状態になっているんですけども。そろそろそういうところに向けて、活発化チーム、それからコーディネーショングループ、さらにはタスクフォースの関係をどう整理していくかということを考える必要が出てくるということですね。項目として挙げておきますかね、何かそのための、また法人化のチームをつくってということまで今日はいかないですけども、次回あたりその議論をするということにしますかね、それじゃ。

【山崎】 そうですね、7、8、9、10で、あと3回ぐらいしかこのチーム会合はないということです。

【加藤】 そうですね。じゃあ次回、この活発化チーム、タスクフォース、コーディネーショングループの将来について検討を始めるみたいな、そういう項目にしますかね。おっしゃるとおりだと思いますね、それは。これはもう皆さんそういう問題意識が強いと思いますので、項目としてぜひそういうのは入れておきましょう。ということで、次回の議題としてもこれを入れたいと思います。

それでよろしいでしょうかね、山崎さん。

【山崎】 私は良いと思いますけども、参加者の皆さんは特に御意見は。

【加藤】 ほかの皆さん、何かこれをtodo事項として入れるというのは何かございましたっけ。

【田畑】 ありがとうございます。総務省の田畑ですが、私も今、加藤様がおっしゃっていただいたとおり入れていただいたほうが良いと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。

それでは以上で今日の議論は終わらせていただいて、次回は4週間後の同じ月曜日ということで7月10日を予定させていただいています。7月10日というのはちょうど先ほど出てたMAGの直前だったと思うんですね。

【河内】 直前というか、その10日からなので、私ちょっと。

【加藤】 そういうことですね。

【河内】 時差が8時間かな。

【山崎】 ずらします？

【河内】 だから、ちょっとやっぱり会議が始まっていますかね。17時、9時とかですよ。

【山崎】 始まっていますね。

【加藤】 5時からだと始まっていますね。その直前がいいですか。

【河内】 どちらでも、直前というと前の週とかですよ。ではなくて？

【加藤】 そうですね、前の週ですね。その日の午前といたら死んじゃいますよね。(笑)

【河内】 ちょっと。私は大丈夫ですが、皆さんの御都合とか。

【加藤】 10日から本当に始まるんですね、さっきの話だど。

【河内】 そうです、10日からなので。ジュネーブですよ、だからやっぱり7時間差ですね、7時間だから17時だと10時なので、やっぱり会議が始まりますね、10時ぐらいから。

【加藤】 10、11、12とあるんですけど。

【河内】 そうです、10、11、12、13までですね。13が午前中だったか、ちょっと忘れまして。

【山崎】 そうすると、7にするか、14にするか。月曜日を堅持するのであれば。

【河内】 逆に14は、私も飛行機の中なので多分無理ですね。

【加藤】 17は月曜日、海の日で休みなんですよ。だから、17まで伸ばすと18という感じですかね。

【河内】 前の週だと早いですかね。

【山崎】 例えば、7はもう移動中ですか。

【河内】 7ですか、7は何曜日でしたっけ。

【加藤】 金曜日ですよ、7月7日。

【河内】 7は大丈夫ですね。

【加藤】 7月7日とおっしゃっています？

【山崎】 はい。月曜日がよろしいですか。

【加藤】 というか、その日は私も駄目なので。

【山崎】 駄目ですか。

【加藤】 ええ、6、7は駄目で、5なら今のところいいんですけど。3はちょっと予定が入っているんですよ、今のところ。

【山崎】 5だと大丈夫ですか。

【加藤】 5は、僕は大丈夫ですけど、この場でそうやって決めちゃってもいいですかね。

【山崎】 それとも予定を聞いたほうがいいですか。必要なら調整さんとかつくりましますけど。じゃあ、その10日の前の週と。

【加藤】 3、4、5あたりで聞きますか。僕、何とか調整してみますが、3、4、5あたりで聞いてみますか。

【山崎】 3、4、5で聞いてみましようか、そうしたら。

【加藤】 でもいいですか。少なくとも今いらっしゃる方は3、4、5なら大丈夫でしょうか。

【浜田】 ちなみに私は月曜日のこの時間はなるべく空けるようにはしています。あとは、その場、その場でいろいろ……。

【加藤】 それは7月3日でも大丈夫ですか、浜田先生。

【浜田】 3日はオーケーです。

【加藤】 はい、じゃあ1週間前の7月3日にしますか。ちょっと僕、4週間ごとで今全部のスケジュールを組んじゃったんで、その次の週も含めて、その次の次の8月7日とかその辺も含めて全部をいじる必要があるんですが。

【山崎】 そうしたら3、4、5で都合を聞いてみましようか。

【加藤】 そうですね。その場合、その次はまた8月7日に戻ってもいいですかね、今回は。

【山崎】 それは柔軟にできるんじゃないですか、必ずしも4週間間隔にしなきゃいけないとは決まってるはないので。

【加藤】 そうですよ、もともとのスケジュールの8月7日に戻る前提で7月3、4、5で。確かにMAG会議の直前はそれで意味があると思いますし、MAGの直後か、本当は直後のほうが情報は多いかもしれないんですが。

【河内】 そうですね。

【加藤】 直後にしますか。僕はどちらでもあれですけど。例えば7月18、19、さすがに17日は休日なので。山崎さん、調整さんをやっていただくなら、今の3、4、5プラス18、19を聞いていただくのはいかがですか。

【山崎】 それは簡単ですよ。じゃあ聞くようにします。18、19だけですよね。

【加藤】 それぐらいでいいんじゃないですかね。

【山崎】 分かりました。

【加藤】 その前提で、皆さんの調整を見た上で。今申し上げたのは、今の時点で私はどれも大丈夫です。

じゃ恐縮ですけど、山崎さん、それを回していただくということで。その前提でなるべく、皆さん、御都合がいい日を選ぶということで、次回お願いしたいと思います。

引き続き総務省の方は御準備大変でしょうし、河内さんもあと50件、60件、読んでいただくのは大変ですけど、頑張ってよろしくお願いしたいと思います。

【河内】 はい。

【加藤】 今日は長い時間、ありがとうございました。

本日はこれで終了したいと思います。どうもありがとうございました。